

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No.22

平成30年8月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



診療科案内
麻酔科

登録医紹介

医療法人 大那 だいなリハビリクリニック

特集チーム医療
退院支援チーム

ふれあい看護体験
実施報告

お知らせ

新人職員が
救護訓練をしています



「痛み」に悩んでいる方は ペインクリニックへ！

第一麻酔科部長 柿沼 宏幸

ペインクリニックとその対象疾患について

皆さんは「ペインクリニック」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「ペイン」「痛み」…つまり、その「痛み」をとることを専門とした診療科のことです。

手術の時と同じく「痛み」をコントロールすることから主に麻酔科医が担当していますが、元々の麻酔科医の数が少ないために「ペインクリニック」もなかなか、皆さんの目にとまることなく知名度は残念ながらいまだに低いのが現状です。

では、どのような患者さんが受診す



上段左から 景山 めぐみ先生、住田 直樹先生、萱嶋 香子先生
下段左から 柿沼 宏幸先生、田中 禎一先生

るかというところ、「帯状疱疹(帯状疱疹後神経痛)や腰のヘルニアや脊(せき)柱(ちゅう)管(くわん)狭窄(きやく)症(しやう)など」が原因の「腰(こし)下(した)肢(あし)痛(いた)み」や「頸(けい)椎(すい)症(しやう)症(しやう)など」による肩や腕の痛み等…要は神経痛や関節痛など、およそ「痛み」という文字がつくものなら、そのほとんどが対象となるのです。

自己回復力を手助け

では、どんな治療をするのでしょうか？

「麻酔科の治療だから神経に麻酔の注射を打って痛みを取るのだろう…」と思う方が多いと思いますが、実は神経に直接注射をして痺れさせるような治療はペインクリニックでは少なく、うまく神経に麻酔薬を作用させて患部の血の流れを良くすることにより炎症を早くひかせて痛みを取る…つまり人の持つ「自己回復力」を手助けして治す、「神経ブロック注射」という少し怖い言葉ですが、実は言葉のイメージよりも安全性の高い注射を主に、そのほか、内服薬や近赤外線照射療法などの注射以外の方法を組み合わせて痛みを取っていきます。

「痛み」で不安になったら

「痛み」は他の病気や怪我と違い見た

目ではわからないので、周りの人から理解を得られないこともあり、とても辛い思いをすることや、原因がわからず、どこに受診すれば良いかわからず途方に暮れることもあるかと思えます。

そんな時は、試しに「ペインクリニック」を受診してみてください。

(また、当院では昨年度1806件の麻酔科管理手術があり、5名の常勤医と毎日数名の非常勤医で麻酔管理にあたっています。)



この機械は「スーパーライザー」といい、局所を温めて血流を良くし痛みをとり除きます。

診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている診療所の先生を紹介していきます。

今回は「だいなリハビリクリニック」をご紹介します。

対象疾患：リハビリテーション科・整形外科・内科



近藤 健 院長

先生にインタビュー

当院との医療連携について期待されていることはどのようなことですか？

だいなリハビリクリニックはリハビリテーションを専門とするクリニックですので、那須赤十字病院での治療後リハビリを必要とする患者さんを紹介して頂き、逆にだいなリハビリクリニックの患者さんが専門的治療を要することになった時には那須赤十字病院に引き受けて頂くという連携が重要だと考えております。専門的治療が終了していても自宅退院がなかなか難しいという患者さんがおられます。また、ご家族が患者さんを自宅で看たいと希望されていてもすぐに自宅退院ができないこともあります。そのような場合にリハビリによって機能回復をし、状況に応じて介護保険の申請をして介護サービスを受ける準備をするなどの、自宅に帰ることができるためのお手伝いをさせて頂いております。在宅医療・訪問診療にも対応しておりますので、これ以上積極的な治療は希望しないというような患者さんのために、在宅医療の依頼を受けることも時折あります。このような患者さんも紹介して頂いておりますが、急変時や治療が必要になっておきます場合には那須赤十字病院へ紹介して治療して貰い、落ち着いたら再度こちらで引き受けてリハビリや介護保険の整備をし、できる限り早期に自宅退院できるように尽力して参る所存ですので今後ともどうぞよろしく願います。

毎日忙しいと思いますが、休日はどう過ごされていますか？

時間がある時はゴルフを楽しむこともあるし、家族サービスに勤しむこともあります。他に挙げるとすれば走っています。過去にはホノルルマラソンに参加したり、トリアスロンも経験しております。最近は年に2、3回マラソンを走りに土日を利用して外国へ行っています。もうすぐ60歳になりますので入院患者さんに24時間体制で対応できるように体調管理、心身ともにメンテナンスしております。また、在宅療養支援診療所に指定されており多数の在宅患者を診ているため、夜間でも依頼があれば駆けつけなければならずお酒を飲まずに仕事に励んでおりますが、出掛けた時などにはお酒を嗜むこともあります。ただ、働きづめというわけではなく不在時には家族の協力が得られるので遠方へ出掛けることもできます。

地域の方々、患者さんへ
一言お願いします。

施設の場所も近く、地域の患者・家族の皆さんにはなるべく負担をかけずに治療を継続していくことができる頼りになる存在でありたいと思います。
リハビリテーションが専門ですのでそれを活かしつつ、介護保険を活用して在宅医療を行い地域の方の役に立てるように

基本情報

- 院長
近藤 健
- 住所
大田原市紫塚3-2633-10
- 電話
0287-20-3102
- 診療科目
リハビリテーション科・整形外科・内科
- 休診日
第1・3土曜午後、第2・4・5土曜、日曜、祝祭日

社会貢献できればよいと思っております。ホームページで色々紹介しておりますので是非ご覧になってください。



チーム医療とは従来、医師が中心となった医療を、職種の異なる医療従事者が、お互いの専門性を発揮し、スムーズに連携していく、患者中心の医療です。医療従事者は、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・社会福祉士・管理栄養士・検査技師・放射線技師・事務など多職種で構成され、対等の立場でお互いの意見を尊重し、個々の患者さんの状態に合わせた質の高い医療を提供します。当院のチーム医療は全部で10チームになります。第8回の今回は「退院支援チーム」を紹介します。

〔退院支援チームとは〕

退院支援とは、医療管理や看護、介護が必要な状況にある患者さんに対して、退院後も継続するであろうと予測できる問題について入院時から^{※1}アセスメント、マネジメントを行い、患者さんが望む生活の場に移行するまでのプロセス全体を支援することです。当院のような急性期病院では病院の役割や機能から、入院期間の短縮が求められています。その結果、患者・家族が思い描く理想的な入院期間や療養内容と病院に求められている許容された入院期間に^{※2}乖離が生じることがあります。私たち退院支援チームは患者・家族と病院間の乖離を埋められるように、院内のみならず院外の専門職と^{※3}カンファレンスを行っています。そして、医療依存度の高い患者さん、慢性疾患や障害を持ちながら退院される患者さんとそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が送れるよう、療養先の相談や調整を行っています。

〔構成人員〕

医師1名 看護師5名 理学療法士1名
社会福祉士1名 事務職員2名

〔活動内容〕

院内での主な活動

●退院支援カンファレンス

呼吸器内科の患者さんを中心に全入院患者さんを対象に治療方針と患者背景を含めた退院調整の方向性について検討を行っています。

●多職種カンファレンス

- ・各病棟での多職種カンファレンス… 週1回
- ・救急病棟・ICUラウンド… 月～金まで連日実施
- ・外科カンファレンス… 月・水・金の週3回
- ・呼吸器内科カンファレンス… 木 週1回

●委員会の開催

1回/月、退院支援委員会を開催しています。退院支援リンクナース(各病棟1名)が退院支援に関する知識を持ち、病棟のリーダーとして退院支援を推進できるように、事例検討や退院支援にかかわる福祉制度や診療報酬についての勉強会を開催しています。

●院外での主な活動

病院と行政が連携し、地域全体で患者さんとそのご家族の支援体制をつくることを目的とし、地域包括支援センターと地域医療福祉連携課・理学療法士・訪問看護師とで地域医療連絡会を行っています。問題となったケースの検討や、ケアマネージャーやヘルパー・施設の看護師が学習したい内容に合わせて、教育内容を計画し研修会を開催しています。

^{※1}アセスメント 対象が抱える問題点や優先度を判断し、看護ケアの方向性を明確化することにつながる。

^{※2}乖離 そむきはなれること。結びつきがはなれること

^{※3}カンファレンス 会議



退院支援チームのメンバー。



ミーティングを重ね情報の共有をします。

ふれあい看護体験実施報告

7 西病棟師長 高久由美子

今年で28年目を迎えた「ふれあい看護体験」が6月3日(日)に開催されました。近隣の高校11校から30名の参加がありました。参加の動機は将来看護師や助産師になりたい、看護師の仕事を知りたい、看護師になりたいが自分に向いているかなど様々でしたが、看護師への関心は高まっていると感じました。

今回の体験では、まずグループに分かれて病棟で看護体験を行いました。実際に患者さんの足や手を洗ってもらった体験をし、患者さんから「ありがとう」と言われた際には緊張していた参加者の顔にも笑顔が見られ、うれしかったと感想がありました。患者さんにも喜んで頂き「あなたの名前教えて」と話しかけられ、うれしそうにコミュニケーションをとっていた姿がとても印象的でした。

次に院内見学も実施し、4東病棟(小児)、8西病棟(緩和ケア)、救急センター、ICU、ヘリポートを巡りました。普段見ることができない所を見学し、とても印象深い体験となったようです。

午後にはシンポジウムを行い、4名の看護師が「心に残った看護体験」を発表しました。参加者はとても真剣な表情で体験を聞いていました。「看護師になるためにどんな勉強をしたか」「看護

学校や大学で辛かったこと」「看護師になって辛かったこと」などの質問があり、それらに対しシンポジストが丁寧に答えました。話を聞いて、「看護師はやりがいがあり、すばらしい職業だ」「辛いことがある中でも笑顔で頑張っている」「看護師を目指す自分にとって良い経験となった」という言葉が聞かれました。

看護師や助産師を目指している参加者はみな「看護」を身近に感じる事ができたのではないかと思います。そして、参加者の感想から担当した看護師達もうれしく感じ、看護について振り返る良い機会になりました。



病院ホームページ バナー広告募集

病院ホームページのトップページに広告を掲載しています。

■掲載位置

- A: 全ページ左側の病院が指定する場所。
- B: 全ページ下部の病院が指定する場所。

■掲載寸法

A 枠: 縦70ピクセル×横220ピクセル
サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

B 枠: 縦70ピクセル×横230ピクセル
サイズ 30KB以内

形式 gif, jpg, png形式

■掲載期間

一ヶ月を単位とし、最長1年

■募集枠

A 枠: 3

B 枠: 4

■掲載料金

A: 15,000円/枠/月

B: 10,000円/枠/月

■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

E-mail: nrchp@nasu.jrc.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.nasu.jrc.or.jp/>



「プラタなす」に広告を掲載しませんか

病院広報誌「プラタなす」に掲載する有料広告を募集しています。

■広告の大きさ 縦30mm×横95mm

■掲載期間 1号単位(4回/年発行)

■募集枠 最大4枠

■掲載料金 20,000円/枠

■掲載期間 発行号単位

■申込み・問合せ

総務課広報係 ☎0287-23-1122(代表)

平成30年度会員募集について

日本赤十字社では、日本赤十字社の創立の月にあたる5月を中心に、毎年**赤十字会員増強運動**を全国一斉に行います。

赤十字会員増強運動とは、一人でも多くの方々に日本赤十字社の「会員」に加入していただき、赤十字の事業に参加していただくための運動で、皆様からご協力いただく資金(会費)によって、日本赤十字社は国の内外における災害活動を始め、血液事業や国際救援活動、社会福祉事業などの数々の人道的活動を円滑に行うことができます。

ご協力をお願いします。

○運動の期間 平成30年5月1日から5月31日まで(地域によって6月、7月になる場合もあります)

お問い合わせ 那須赤十字病院 社会課

日本赤十字社の会員とは

赤十字の目的や事業を理解いただき、毎年500円以上の資金(会費)を納めていただく個人、法人を指し、赤十字の基盤となっております。

「会員」は人種、国籍、信条、性別などによって差別されることなく、だれでも「会員」になることができます。

がんのつどい

| | |
|----------|-----------------------------|
| 8月4日(土) | 「薬について」薬剤師 会議室1・2 |
| 9月1日(土) | 「食事について(主食)」管理栄養士 会議室1・2 |
| 10月6日(土) | 「未定」がん看護専門看護師 会議室1・2 |

インターンシップのご案内

平成31年度に就職する、看護師の方を対象にインターンシップを行っています。

看護師……平成30年8月1日(水)、8月8日(水)、8月22日(水)、8月29日(水)

今月の表紙

蛇尾川緑地公園で新人職員が救護訓練をしている様子です。

先輩救護隊員の説明と実演の後、新人達が先に聞いた説明を復唱しながら頑張って訓練していました。恐る恐る担架を搬送している姿はまだ頼りないですが、あと数年もすれば頼れる存在になることでしょう。



編集後記

気がつけば、今年も半分が過ぎ、夏本番を迎えました。熱中症対策が必要な季節です。

ちなみに、ビールが美味しい季節(私は年中)ですが、ビールは水分補給にならない事を、誰かしら教えてくれます。毎年ご忠告ありがとうございます。(笑)

こまめに水分補給、ほどよい塩分摂取(疾患によっては主治医に要相談)、そして十分な睡眠が大切との事です。皆様、体調管理に気を付けて、元気に夏を乗り切りましょう。

地域医療福祉連携課 安藤有紀

本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください!

抽選で3名様に「CroKuma 救護服ぬいぐるみ」「CroKuma ナースぬいぐるみ」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵 送 / 〒324-8686 大田原市中田原 1081-4

那須赤十字病院 総務課

プラタなす第22号 プレゼント係

F A X / 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第22号 プレゼント係」

メール / nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第22号 プレゼント係」

●応募締切り 2018年8月31日(金)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

那須赤十字病院

基本理念

マイタウン・マイホスピタル
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さんの立場を尊重し、患者さんに信頼される病院をつくりたい。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.22

発行日 2018年8月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷